

明現寺の雲版（青銅製）

（福山）

雲版^{うんぱん}は、寺で合図のために打ち鳴らす器具である。青銅または鉄で造られ、雲形^{くもがた}を模している。

主に、禅宗の寺院で用いられる。他に、長板、火版、打板、齋板^{さいばん}、鐘板^{しょうばん}の呼び名がある。明現寺では、以前は、食堂に吊して、仏事^{ぶつじ}の際に食事の準備ができた合図のため打ち鳴らし知らせたという。



銘文 明現寺14世柏堂^{はくどう}

施主 久米郡蔵内村 牧田貞左衛門督恵^{さだざ えもんたくえい}

弘化^{こうか}4年（1847）丁未^{ひのえひつじ} 4月8日

鑄物師 齋江定右衛門^{※ふじわらのかずはる} 藤原和春

（注）

藤原和春：齋江家第8代の当主